

公開研究会を終えて

朝、決まった時間に校庭を歩いていると、子どもたちが元気に挨拶をしてくれます。

最初は挨拶だけだったのですが、そのうちに「副校長先生、見てください」と言って一輪車が上手になったことを見せてくれるようになりました。また1年生の校庭では、鉄棒で逆上がりを見せてくれる子どもがいます。「上手だね」と褒めると周りの子も「見て!」と言って一生懸命逆上がりに挑戦します。何か特別なことをするというのではなく、子どもを見てあげること、一声掛けてあげることがこんなにもモチベーションを上げるんだと思わず納得してしまいます。

公開研究会から1週間が過ぎました。私は先生方のように授業や研究発表をしたわけではありません。それでも終わってみるとずっと肩の力が抜けたように思います。私でさえこうですから、先生方はどんなにか緊張感から開放されたことと思います。本当にお疲れ様でした。

授業をはじめ子どもにとって、多くの人に「見られる」という経験は自信につながったことと思います。特に合唱は聴き手が大人（先生）なので、校内での発表や合唱の会との会場の雰囲気とは違って、普段以上の集中力を発揮し、あのようなすばらしい発表につながったことと思います。

さて明日は地震を想定した引き渡し訓練が行われます。実は今日6月8日は忘れることができない日で、平成13年6月8日に大阪教育大学附属池田小学校に暴漢が侵入し、多数の尊い命が犠牲になる、という大変痛ましい事件が起きた日でした。当時私は、附属小で勤務していました。この事件の後、子どもたちが不安にならないように、全職員で現在も使用している名札をしっかりと付けることを決めたり、警備員の方々に警備を依頼したり、校内に安全ブサーや「さすまた」などを常備したりするようになりました。

また、6月12日は「みやぎ県民防災の日」です。昭和53年の「宮城県沖地震」を契機に、県内各地域において大規模地震災害の発生に備え、地震災害に対する防災体制の確立と防災意識の高揚を図ることを目的として県内各地域で防災関係機関と地域住民が一体となって各種の訓練が実施されています。

学校は子どもの命を守ることが何より大切です。これからも安全・安心な学校を作るために、過去の記憶を決して風化させることなく、教訓を語り継ぐこと、そして危機意識をもつことが私たち大人の使命です。明日は保護者の方々と「子どもの命最優先で守る」ということで気持ちを揃えて、私も訓練に参加するつもりです。

(文責：副校長 手代木)